

ピレリスーパー耐久シリーズ 2020 第2戦 SUGO スーパー耐久3時間レース

2020年10月10日(土)
スポーツランドSUGO(宮城県)
入場者数:10月10日 2,200人



まさかのクラッシュでレースを戦えずも 緒戦で多くの収穫を得る

2020年、これまでもさまざまなモータースポーツ活動を展開してきた神戸トヨペットは、KTMS (KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS) として新たな挑戦の舞台として、片岡龍也をアドバイザーとして迎え、若手育成、社員育成を主眼とし、市販改造レーシングカーが参戦できる最高峰、ピレリスーパー耐久シリーズに挑戦を開始した。

参戦の舞台は、TOYOTA 86 やインテグラが火花を散らし合う、激戦のST-4クラス。もともとプライベートに愛されていたカテゴリーではあるが、近年はその競争の激しさからディーラーや市販パーツメーカーが積極的に参戦。トッププロドライバーたちがステアリングを握るカテゴリーとなっている。

そんなカテゴリーに向け、KTMS が取り組んだアプローチは、ただ単に勝利を狙うだけのものではない。車両は神戸トヨペットでも人気車種である TOYOTA

86。そしてドライバーには、現在フォーミュラカーの登竜門であるFIA-F4でトップを争う野中誠太をADドライバーに、同じくFIA-F4に参戦する平良響をBDドライバーに据えた。そしてCドライバーには、沖縄出身で2019年に四輪デビューした女性ドライバー、翁長実希という3人の将来性あふれる若きドライバーたちだ。

これまではレーシングカートやフォーミュラがメインだった3人だが、ツーリングカーをドライブすることでドライビングの幅も広がり、かつトッププロと戦うことができる貴重な一年になるはずだ。

チームは2020年2月29日、まだ寒さが残る富士スピードウェイで行われた公式テストからシーズンをスタートさせたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりシーズン開幕は大きくずれ込んでしまった。

自粛期間を経て、シーズンがふたたび動き出したのは7月30日。ふたたび富

士スピードウェイで行われた合同テストに臨み、習熟を重ねた。

そして、第1戦として開催された富士SUPER TEC 24時間レースはスキップし、KTMSはいよいよ10月10日(土)~11日(日)に開催される第2戦『SUGO スーパー耐久3時間レース』に臨むことになった。

舞台は宮城県のスポーツランドSUGO。コース幅が狭く、非常にタイトながらチャレンジングな、全長3.735kmのコースだ。



FREE PRACTICE

スポーツ走行 10月7日(水) 午後1時~午後5時
 有料スポーツ走行 10月8日(木) 午前11時35分~午後0時00分/午後1時20分~午後1時45分/午後3時05分~午後3時30分
 STEL 専有走行 10月9日(金) 午前8時00分~午前9時30分/午後0時00分~午後1時30分



今回の第2戦 SUGO は、公式セッションとなる10月9日(金)の前に10月7日(水)に大沼プランニング主催のスポーツ走行が、10月8日に STEL の有料スポーツ走行が用意されていた。KTMS 86 は今回初参戦ということもあり、10月7日(水)のスポーツ走行から臨んだ。

10月7日(水)のSUGOは曇り空ながらドライコンディション。3人のドライバーとも、KTMS 86 を使って走行することは初めてで、翁長についてはスポーツランドSUGO自体が初走行のコース。4時間の走行枠を使って、まずは野中と平良がユーズドタイヤを使って確認走行を行い、翁長はまずサーキットの習熟に費やすことになった。この習熟を行いながら、チームはさらにセットアップを確認。デフの確認等を行ったが、ドライバーたちのフィーリングも良好だった。

明けて10月8日(木)は、あいにくのウェットコンディション。この日は有料スポーツ走行で、25分間のセッションが3回という構成だったことから、ひとりのドライバーが1本ずつを走行するプログラムを組み、まずは平良から走行。上位陣から比べると差はあったが、使用して

いるのはかなり使い込んだユーズド。2本目は翁長に託し、3本目は野中が少しずつ路面が乾きつつあるなか、ステアリングを握り少しずつ上位との差を詰めていった。

2日間に渡る調整を経て、迎えた10月9日(金)はいよいよ STEL の専有走行。まずは午前8時からの Gr-2 の走行1回目に臨んだ。まずはふたたび、ユーズドタイヤで野中からコースインし、前日トライしたダンパーのフィーリングを確認し、好感触を得られたことから、いよいよニュータイヤを装着した。

待望のニュータイヤを履いた野中は、ウォームアップを経て3周目には1分36秒059というタイムをマーク。さらにその2周後、1分34秒台をマークしてみせる。さらに7周目には一気に1分34秒409というタイムをマークしピットイン。上位陣のタイムとも遜色はなく、大いに戦える手ごたえを得て KTMS 86 をピットへ戻した。

野中に代わって、今度は翁長が KTMS 86 に乗り込みコースに出ていく。この週末が初めての SUGO だった翁長だが、快調にペースを上げると、1分36秒638までタイムを上げていった。しかし、好事魔多し。交代して8周目、レインボーコーナーで姿勢を乱した翁長はクラッシュを喫してしまったのだ。

KTMS 86 のダメージは大きく、なんとか翌日からの公式予選に向けて板金作業を行った。車体としては修復することができたが、ひとつ重要なパーツが足りない。走れないこともなかったが、安全な走行のためには不安があった。

迎えた10月9日(土)、スーパー耐久機構からは、嘆願書を提出すれば午後1時15分から予定されていた決勝レースへの出走が可能だという連絡を受けたものの、KTMS としては未来ある若手ドライバーたちをパーフェクトに修復されていないマシンに出走させるわけにはいかない。ましてこの日は雨模様で、危険が多い。KTMS はやむなく、リタイヤという決断を下すことになった。

待望のデビューレースではあったが、いきなりの苦難に見舞われることになった KTMS。しかし、苦難の先には未来がある。何より、水曜から過ごしたことで3人のドライバーたちにも確固たる目標と自信ができた。第3戦岡山はもう月末だ。KTMS 86 は次戦の飛躍を目指す。



ビレリスーパー耐久シリーズ 2020 第2戦 SUGO スーパー耐久3時間耐久レース STEL 専有 1st Gr-2 結果

1	884	ZN6	林テレンプ SHADE RACING 86	1' 39.009	8/35	10.475
2	310	ZN6	GRGarage 水戸インター GR86	1' 36.976	3/34	11.853
3	225	ZN6	KTMS 86	1' 36.760	17/25	12.002
4	13	ZN6	ENDLESS 86	1' 36.597	4/31	12.115
5	60	DC5	全業工業アルージェ インテグラ	1' 35.779	5/31	12.684

DRIVER'S VOICE

野中誠太 SEITA NONAKA

「これまでフォーミュラだけでレースをしてきたので、ハコ車でのレースは未知の世界でしたが、公式テストが2回富士であり、今回 SUGO は初めてで、新たな経験となりました。少しずつ走行を進めていきましたが、F4 での経験も活き、思っていた以上にスムーズに週末を過ごせたのではないかと思います。残念ながらアクシデントによって予選、決勝を戦えませんでした。多くのチームメンバーと一緒に、こうしてアクシデントがあったときもチーム一丸となって戦うことができたのは、デビュー戦のレースウィークとしては本当に良い経験になったと思います。次戦までにそれほど時間もないので、ドライバーとしてもしっかり準備をして、チームと一緒に次戦に備えていきたいと思っています」



平良 響 HIBIKI TAIRA

「初めてのスーパー耐久でしたが、富士でのテストからフォーミュラとはまったく異なる動きにもすぐに対応できたと思っています。水曜からタイムもそれほど遅くもなく、良い感触がありましたね。ドライであれば、良い位置にいたのではないかと思います。ただ、雨が降って濡れていたときはまだ怖さがありました。残念ながらクラッシュしてしまったことは仕方がないと思っています。一方で、エンジニアさんやメカニックの皆さんも素晴らしい体制を構築してくれていましたし、チームの雰囲気も素晴らしいかったです。次戦の岡山国際サーキットでのレースも、きっと良いクルマを用意していただけると思っていますので、岡山では上位争いができるように頑張りたいと思っています」



翁長実希 MIKI ONAGA

「2年前に四輪でデビューをして、富士でのテストを経て初めてのハコ車でのレースウィークでしたが、クイックさは感じつつも、ツーリングカーならではのタイミングのとり方など、まだまだ難しさを感じています。SUGO 自体も初めてで、気をつけながら走っていたのですが、まだ自分のドライビングがついていかない段階でペースアップしてしまい、制御できずクラッシュしてしまいました。チームの皆さんも一生懸命クルマを作ってくれていたなかで、自分のミスで台無しになってしまったのは悔しいのですが、チームの皆さんがひとつになって予選に間に合わせようと頑張ってくださって、団結力は上がったのではないかと感じています。この悔しさを岡山にぶつけていきたいです」

